

最高級スピーカーにまさるとも劣らない超高音質ヘッドホンシステム

SR-SC1

販売価格¥ 68,000(税別)



SR - SC1
(コンデンサー・ヘッドホン)
アクセサリーやアンプについては
S T A Xの製品と互換性があります。

SRM-222

販売価格¥ 35,000(税別)

SRM-222P

販売価格¥ 58,000(税別)

SRM-222からのバージョンアップ
¥ 25,000(税別)



SRM 222 P
(ヘッドホン専用アンプ)
SRM 222は、上部のアンプに
ACアダプターが付いたセットです。
S T A Xの製品にお使い頂けます。

コンセプト

究極のヘッドホンが欲しい！リスニングルームという「環境」に左右される「スピーカー」とは違い、いつでも「同じ音質」・「好きな音量」で音楽を楽しめる「ヘッドホン」は、アメリカのような住宅環境に恵まれない「日本で音楽を聞く」ためには「最適なパーソナルシステム」であると同時に「最高の音楽モニターシステム」です。

「音の拡がりに乏しい」・「低音が足りない」・「潤いがない」などの従来ヘッドホンには不可避であった欠点をA I R B O Wの最新技術・D C T クライオ処理とインバーター電源技術(SRM-222Pのみ採用)によりクリアして、ヘッドホンを越えるヘッドホンとして誕生したのがこの製品です。

特徴

S T A Xの最高モデルSRM-007を聴けば「振動膜の薄膜化」が「膜自体の固有音を低減」し、S T A Xの低価格モデルよりも「無理のない自然な音」と「ヘッドホンを意識させない音の拡がり」が実現されているのに気づきます。しかし、逆に「振動膜の厚み」を薄くすることで「楽器のアタック感が損なわれ」なり、音の芯が細く、優しくなってしまったような印象を受けます。そこで「膜の厚みを薄くせずに固有音のみを消す方法」としてヘッドホンへの「D C T 処理(極低温処理)」の可能性を探るため、繊細なコンデンサー・ヘッドホンへのD C T 処理の実施についてS T A Xからも大きな協力を得て実験と開発を行いました。様々なテストよりSR-404Signatureに採用されている振動膜をD C T 処理した音質が素晴らしい、オメガの弱点を感じていた「低域の薄さ=エネルギーの高音への偏り」が完全に払拭された「真のイヤースピーカー」と呼べるSR-SC1が誕生しました。

その音は、ヘッドホンを掛けていることを忘れるほど「拡がり」に富み、電気的な増幅により音楽を聴いていることをまったく感じさせないほど「自然」です。そして何よりも驚かされるのは、「今までのヘッドホンでは聞こえなかった楽器の基音(最低音)がハッキリと聞き取れる」ことです。まるでサブウーファーを併用していると感じられるほどの厚みと実在感のある低音が実現しています。このヘッドホンを使えば、もはやスピーカーでなくとも、あるいは「スピーカー以上に全く何の不満もなく音楽を楽しむことができる」のです。

この素晴らしいヘッドホンを駆動するアンプとして開発されたのが「SRM-212」をベースとする「SRM-222」です。さらにSRM-222をA I R B O Wお得意のインバーター電源ユニットで強化したモデルが「SRM-222P」です。SR-SC1やSRM-222(P)のすべてのモデルは、S T A Xの製品と完全な互換性がありますので、両社の製品を組み合わせてお使い頂いたり別売のヘッドホンアクセサリーをご利用頂けます。

SC-1の主な仕様

形式	エレクトロスタティック型プッシュプル
周波数特性	7-41,000Hz
静電容量 (ケーブル含)	110PF
音圧レベル	100dB/100V r.m.s.
ケーブル	幅広特性低容量 PC-OCC 導体 2.5m(8.3ft)
イヤーパッド	高透湿性高級人工皮革
重量(ケーブル含)	475g
使用周囲温度/湿度	0-35 /90%以下 ただし結露しないこと
推奨アンプ	SRM-222 / SRM-222P

SRM-222(P)の主な仕様

形式	オール半導体式 Class-A DC カップリング・イヤースピーカー用ドライバユニット
入力感度/インピーダンス	100mV/50k
周波数特性	DC-20,000Hz
消費電力	5W/12V
電源	100V / 60Hz
寸法(本体)	132(W) × 38(H) × 132(D)mm
寸法(電源部)	130(W) × 40(H) × 160(D)mm
重量(本体)	500g
重量(電源部)	400g
備考	電源と本体を接続するケーブルは取り外せません。